

いこいの広場コンサート

平成25年度 活動報告



共同利用研究施設 分子生物学 准教授

山本 直樹(中央)

医療科学部 臨床検査学科 准教授

大橋 鉦二(左)

医学部 病理学 教授

堤 寛(右)

「いこいの広場コンサート」は、松田真谷子先生(元医療科学部音楽療法教授)の“患者さんに何かできることを…”という強い思いから、平成16年4月の第1回以来、退職されるまでの平成25年1月まで、通算103回のコンサートが開催されました。初期は少人数のミニコンサートだったと何っています。その後、徐々に賛同者が増え、医学部や医療科学部のスタッフや学生ボランティアに支えられて、毎回150～180名の患者さんに集まっていただけのコンサートへと成長しました。

平成25年3月、松田先生が退職されることになりました。患者さんのためであると同時に、ボランティアとして参加する学生たちの

成長にも大きく寄与してきた教育的なイベントとして、さらに100回を超えるコンサートの開催実績を鑑みて、このまま「いこいの広場コンサート」が終了してしまうのは“あまりにも惜しい”と、このコンサートに以前より関わっていた私たち3名の考えが一致しました。

幸い、黒澤良和学長を統括責任者、堤を実行委員長とした“学園行事”として「いこいの広場コンサート」の継続が決まりました。現在、医療科学部教員、学園本部、キャリア支援課、病院医事課、看護部、施設課、ビジュアルセンターなどの教職員に加えて、ボランティア学生を東ねる学生責任者たちによって、「いこいの広場コンサート実行委員会」が組織されま

した。平成25年度の活動は、同年4月を皮切りに年7回の開催となりました。開催の詳細は、大学ホームページ下段の“いこいの広場コンサート”をご覧ください。

以前、病院地下にあったショッピングモール、スーパー、食堂街などは、入院生活という非日常から一時的にでも日常の生活感をとり戻すことが大切であるという故藤田啓介総長の発想で開設されたと何っています。音楽は日常社会の窓口であり、「いこいの広場コンサート」が患者さんの入院生活や療養生活の癒しになればという思いを込めて、これからも継続していく所存です。学生たちにも、学部学年の垣根を越えたアゼンブリ精神発揮の場として、「いこいの広場コンサート」にボランティアとして積極的に参加してほしいと思います。

第1回コンサートの開催当初から一貫した支援をいただいた「藤田学園同窓会」と「ユリカ株式会社」には、平成25年度以降も共催していただけることに深謝します。同窓会の皆さまにも、今後とも息の長い支援をよろしくお願ひします。

